

# いこいの村 酒井キヌ

題字 とくらの家

2014年(平成26年)5月20日発行

第384号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター  
所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>



梅の木寮から4人参加

## 高倉正次さんを偲ぶ会

～京都府北部の聴覚障害者運動の先駆者～



高倉さんと舞鶴のろうあ運動を頑張ってこられた藤田氏



高倉さん、約30年前の手話ビデオの様子



平成16年からいこいの村・梅の木寮で暮らしつづられた高倉正次さんが、昨年9月14日に98歳でお亡くなりになりました。高倉さんは、京都府北部の聴覚障害者運動の先駆者として、長年頑張つてこられました。

高倉さんが目指した「聴覚障害者が主体的に参加できる社会」について語り合いたいと、実行委員長を富永安雄氏とし『高倉正次さんを偲ぶ会』が、3月23日に舞鶴で行われました。高倉さんとの縁があった方々が100人近く集い、思い出を語り合いました。

「高倉さんのおかげで皆が集まった」と実行委員長の言葉にもあったように、そこには高倉さんの人生の足跡と長年の運動の結晶がありました。

(いこいの村・梅の木寮  
永井千鶴)

# せむしむし仕事は続けたい

脳性小児麻痺のある谷口さん(49歳)は、若い時は農業班で働いていました。一昨年末までは、毎年9月になるとしめなわ生産のひげ切りの工程を担当されました。

病気の進行に伴って、時々車椅子の使用もみられ、現在は施設内の自動販売機にたまった空き缶を集め、プルトップを取るのが谷口さんの仕事となりました。

しかし、昨年の秋頃から作業棟に出向かず部屋で過ごす

日が続きました。「体調が悪いのだから何か気がいらないうつがあるのだろうか？」

たずねてみますが、「X」と中指を重ねるだけです。今日もまた、「X」と言われるの

かなと思いつながら、「作業にいきませんか？」と誘ったら、

空き缶のプルトップを取るしくみをされたのです。急いで、

空き缶を寄せ集めて見せると、「じゃ、これ、僕の仕事」と言わんばかりです。

空き缶の回収が少なく、作

業棟に行っても日分の仕事量

すらなかったのです。谷口

さんにとっては、「仕事」が毎

日の張り合いであり、頑張る

時間なのだと思ふため、

かされました。

リサイクル品(段ボールや

アルミ缶などが、たくさん集

まれば収入も増えます。地域

を回り、量も増やし、リサイ

クル工場を作ろうと仲間皆で

話し合いました。

## 毎日の暮らして張る力を

中間の皆さんは50代〜70

代がほとんどですが、今年度

の抱負をたずねると、

「バザーがしたい」

「ダンスがしたい」

「コーヒーを作るのが好き」

「リサイクルをもっと頑張りたい」

「パンがもっと売れるように

がんばる」

「旅行も行きたい」



毎年4月に「暮らしを考える集い」を開催し、願いを出し合います。

「故郷に帰りたい」など、前向きな思いがたくさん出されました。

人とのふれあいを通じて自分の役割を発揮し、それに見合った給料や励ましをもらい、喜びや希望につながる、そんな日々を積み重ねられるように、今年度も取り組んでいきます。



いこいの村・栗の木寮

勝山洋子



今年度は

### 「読んで得する」の知識

「介護の窓」

が始まります。

介護保険に関わることを解りやすくシリーズでお知らせします。



今回は来る平成27年度の3年度目の法改正に向けた現在の動きを紹介いたします。

大きなポイントは、軽度者(要支援1・2の方)のデイサービスとヘルプ利用は、介護保険給付から外されます(利用継続中の方は3年の間に移行していきます)。



### 「より人権はよくなるのっ」

市町村が、利用対象外となった方への独自サービスを創り出します。

しかし、この新たな事業は、いつまでも自前で元気に暮らすために」という大きな目的があります。

どんな機能が必要か効果的な内容を、それぞれの地域性や利用者のニーズを踏まえて創りださねばなりません。

### 「綾部市すいきが」

#### 「シニア教室」

そのために、綾部市は全国に先駆けて、6月からモデル事業「綾部市すいきがシニア教室」を始めます。委託されるモデル事業所は数か所です。それぞれが特徴のあるプログラムを組んでいます。利用者の満足度と効果測定をしながら3年間を目安に新事業を編成していく予定です。

### 「誰が利用したいのっ」

今回は、昨年、綾部市が実施した「すいきが点検」で「気をつけましょう」と判定された二次予防対象者です。



### 「制度改正を自分のために」

「切り離される軽度者」ととらえずに、この機会に自分にとって、何が必要なのか? 自分や周囲を見渡し、どうすれば元気が保てるか、さらに改善を目指すにはこんなサービスを創ってほしいと発信できる大事な時期にしていきたいでしょう。

(綾部市東部地域包括支援センター 東 やよい)



綾部東部デイサービスセンター  
綾部東部在宅介護支援センター  
綾部市東部地域包括支援センター  
いこいの村・とくらの家

施設長 今中 智子

いこいの村・とくら福祉センター(綾部東部デイサービスセンター・綾部東部在宅介護支援センター・綾部市東部地域包括支援センター)が十倉交差点近くに移転・開所してから1年が経とうとしています。

「近々・親しむ・心強めたい」が言葉のセンター建設でしたが、相談やふらりと立ち寄ってくださる方々が大幅に増え、「近々・親しむ・心強めたい」のあるセンターになってきました。

舞鶴赤十字病院の理学療法士の指導が受けられるようになり、リハビリテーションを目的にデイサービスに来られる利用者も増えました。



設立記念植樹の桜



今年度は専門職による専門的な介護予防教室や認知症の学習会など、地域の皆様に親しんでいただけるよう、様々な事業を計画しています。とくら福祉センターからいこいの村に登る坂道やとくらの家の前に地域の皆様に植えていただいた桜やあじさいなどの成長とともに、とくら福祉センター・とくらの家もこの地でしっかりと根を張ってまいります。

